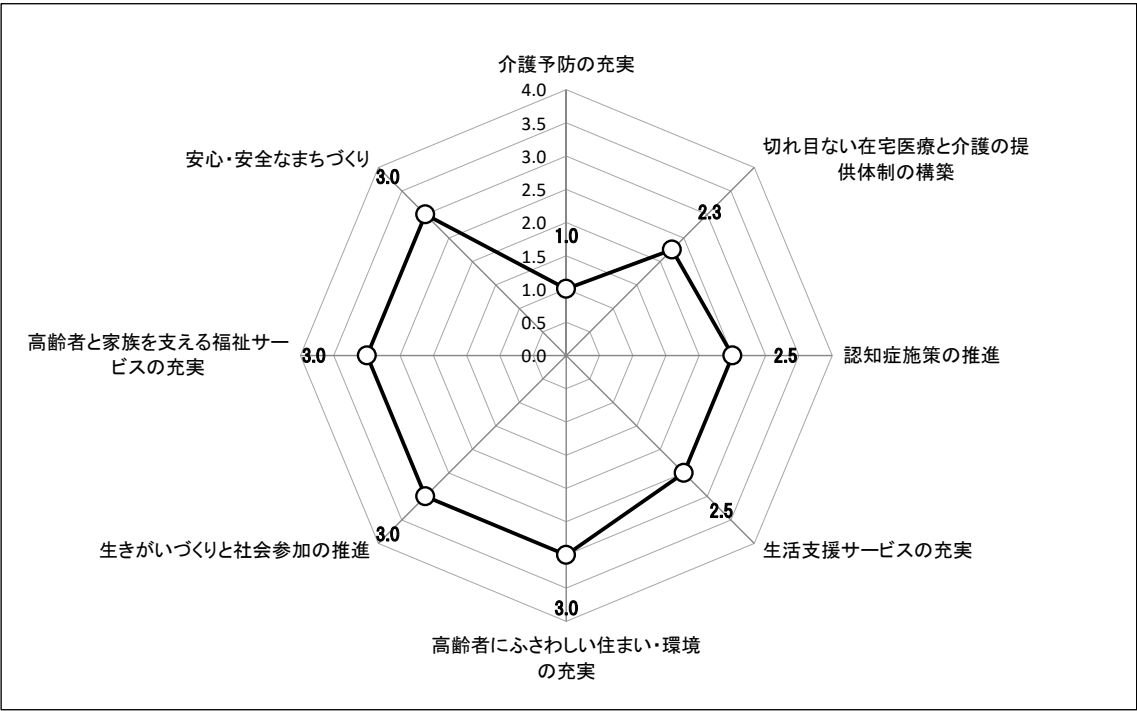


現在策定中の施策の試評価(案)について

現在策定進行中の途中経過として、各施策分野別に指数化し示したのが以下のチャートです。概括するために使用しています。

■施策分野別のレーダーチャート



	A (3点)	B (2点)	C (1点)	D (0点)	平均得点	対象 項目数
介護予防の充実	3	0	1	2	1.0	4
切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築	15	0	3	0	2.3	8
認知症施策の推進	12	2	1	0	2.5	6
生活支援サービスの充実	3	2	0	0	2.5	2
高齢者にふさわしい住まい・環境の充実	3	0	0	0	3.0	1
生きがいづくりと社会参加の推進	3	0	0	0	3.0	1
高齢者と家族を支える福祉サービスの充実	3	0	0	0	3.0	1
安心・安全なまちづくり	3	0	0	0	3.0	1
合 計	45	4	5	2	2.3	24

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																								
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向1－1 介護予防の充実																								
施策・事業名		①脳の健康教室																								
施策の対象者		65歳以上の方																								
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		読み書きや簡単な計算等の学習を通して、脳の活性化を図ります。また、学習に通い、他者との交流や生活リズムの保持を行うことで認知症を予防し、参加終了後も、地域で自主的に認知症予防のための活動が行えるように支援します。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		超高齢社会を迎え、住民の認知症予防への関心は高い状況ですが、学習者募集では十分な人数が集まっていない・新規の参加者が少なく、リピーターが多くなっている等の課題があります。また、事業終了後の地域活動への発展にはつながっていないため、地域づくりに展開できる仕組みの検討が必要となっています。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
参加実人数(人)	見込み		5	20	20	20																				
	実績値		5	2913	517																					
	乖離率		0.0%	99.3%	96.1%																					
	実績値																									
	乖離率																									
	実績値																									
	乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題		介護予防把握事業の結果より認知機能に該当する方が多かったことを踏まえ、令和3年度より教室型ではなく、認知予防に取り組むきっかけづくりとして、脳活問題集「はじめよう！脳活問題集」を作成、配布しています。配布数からも認知症予防に対する関心は高いと考えられますが、認知症に対する正しい知識や認識の啓発には至っていない状況です。																								
今後の方向性		課題を踏まえ、本事業の廃止を検討します。 今後は、自主的に予防に取り組むきっかけとして、「はじめよう！脳活問題集」やフレイル予防パンフレットの作成・配布等の普及啓発事業に取り組んでいきます。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						D																				

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1ー1 介護予防の充実																											
施策・事業名		②動いて！認知症予防																											
施策の対象者		65歳以上の介護認定を持っていない方																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		運動を行いながら認知症の予防を図る教室です。介護予防教室において、「栄養」「口腔」等の講座を取り入れ、介護予防に重要なプログラムを総合的に実施します。また、自発的に介護予防・健康づくりに取り組む環境を提供することで、住民が主体的に活動し、仲間づくり・地域づくりができる仕組みを構築します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		参加者数が減少していますが、事業終了後には地域活動への参加につながっている現状があります。事業のあり方等、今後の展開方法について検討する必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
参加実人数(人)	見込み		12	35	35	35																							
	実績値		12	9	18																								
	乖離率		0.0%	-288.9%	-94.4%																								
	実績値																												
	乖離率																												
	実績値																												
	乖離率																												
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍の影響があり、感染予防対策の観点より、流行時には中止、会場の収容人数を縮小して実施する等の変更があったため。また、市民の認識としても外出を避ける傾向があり、以前よりも参加者数が減った。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		コロナ禍の影響もありましたが、定員に満たない現状があり、実施方法を変更したり、認知症予防に限定しない内容の実施等、事業評価を行いながら実施してきました。教室終了後は地域活動につながったり、参加者同士の交流ができる等の事業効果はあるものの、費用対効果は低いと考えられます。																											
今後の方向性		課題を踏まえ、本事業内容を見直し、新たな介護予防教室の実施を検討します。地域包括支援センター等と情報共有を行い、事業評価を実施しながら、地域の実情に合わせた事業を展開していきます。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
参加実人数(人)		見込み	75	75	75	75																							
施策・事業の方向性→			⑦	⑦	⑦																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－1 介護予防の充実																									
施策・事業名		③いんざい健康ちょきん運動																									
施策の対象者		市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住み慣れた地域で顔なじみの人たちとの生活を維持することを目的に、地域住民が歩いて参加できる場所で主体的に筋力運動を行いながら、健康づくりや地域づくりを行います。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		活動グループ数は増加しているものの、地域によってグループ数に差があります。また、健康づくりに関心が高い一方で、地域包括ケアシステム構築に向けて、住民が主体的に地域づくりを行う状況には至っていません。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
参加実人数(人)		見込み		1600	1700	1800																					
		実績値		1059	1200																						
		乖離率		-51.1%	-41.7%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍の影響があり、感染予防対策の観点より、流行時には休止するグループや、参加者自身も外出・参加を避ける傾向があり、以前よりも参加者数が減った。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		コロナ禍の影響があり、一時は参加実人数の減少や、グループ自体が活動を休止することがありました。グループが主体となって実施方法の工夫を行ったり、休会している方への見守り等、地域のつながりを強くしていく必要があります。																									
今後の方向性		コロナ禍を機に、地域のつながりの必要性を感じている方が多くなっているため、年齢や介護認定を問わず、集まることを目的とした健康づくり・地域づくりの場であることを改めて周知・啓発していきます。また、見守り等を含めた地域の支え合い活動へ発展できるよう後押しを行っていきます。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
参加実人数(人)		見込み	1900	2000	2100	4000																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－1 介護予防の充実																									
施策・事業名		④介護支援ボランティア																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		高齢者の介護予防のため、市内に居住する65 歳以上の方を対象とし、介護保険施設等でのボランティア活動に対してポイントを付与し、そのポイント数に応じて交付金を交付する制度です。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		登録者数・受入施設数ともに増加傾向にありますが、地域包括ケアシステムの構築に向けて、さらなる事業の周知・啓発が必要となっています。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
ボランティア 登録者数(人)		見込み	85	100	100	100																					
		実績値	85	37	43	50																					
		乖離率	0.0%	-170.3%	-132.6%	-100.0%																					
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍で施設でのボランティアの受け入れを停止したこと、ボランティアが65歳以上により、外出を自粛したため。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		施設でのボランティアの受け入れを停止しているため、地域貢献を奨励、支援できるボランティア活動が見つからない。																									
今後の方向性		コロナが収束するまでは施設側がボランティア受け入れ停止の継続が考えられるため、その他のポイントを付与できるボランティア活動を考える必要がある。また、介護支援ボランティア制度を見直す必要があると考えている。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
ボランティア登録者数(人)		見込み	55	56	57	100																					
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
							規模(量)																				
			拡大	維持			縮小																				
			費用	拡大	①	②	③																				
維持	④	⑤		⑥																							
縮小	⑦	⑧		⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)					D																						

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		①医療・社会資源の把握																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住民の医療・介護へのアクセスを容易にし、医療・介護関係者の連携を促進するため、地域の医療・社会資源の把握をし、市民や関係者に情報提供します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		医療機関等に対して、2年毎にアンケート調査を行い、「介護と医療サポートガイド」の情報更新をしています。内容について検証の必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
介護と医療サポートガイド等(配布数)		見込み	600	600	600	600																							
		実績値	600	600	600	600																							
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%																							
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		情報提供できる訪問診療可能な市内の医療機関が少ない状況が続いている。在宅療養を希望される方たちが、在宅療養について資源を含め、在宅療養について見通しや必要な心構えができ、適切なサービスが切れ目なく提供されるよう介護と医療サポートガイドの内容や周知方法について検討が必要である。																											
今後の方向性		介護と医療サポートガイドに掲載されている医療機関については、市内の医療機関に限らず、市内に訪問可能な近隣市の情報を掲載していく。また、この冊子が支援機関の資料として活用されるだけでなく、必要とされるより多くの市民に活用していただくための内容を検討し、講演会などでも周知していく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
介護と医療サポートガイド等(配布数)		見込み	600	600	600	600																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		②在宅医療・介護連携推進会議																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域の医療・介護関係者などが参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状把握と課題の抽出、対応策などの検討を行っています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		医療・介護の連携における地域の現状や課題の把握に努め、対応策を話し合っています。課題に対する具体的な対応策を検討し連携会議に提案するために、ワーキンググループの立ち上げを行いました。今後は課題ごとのワーキングを機能させていく必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3~5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
在宅医療・介護 連携推進会議開 催(回)		目標値	2	2	3	3																							
		実績値	2	2	3																								
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		在宅医療・介護連携の現状把握と課題を抽出について検討し、計画に反映させた取り組みの見直しを行っていく必要がある。また、認知症施策推進大綱や看取りに関する取り組みを強化していく必要がある。																											
今後の方向性		令和3年度から認知症初期集中支援チーム検討委員会と合併したため、認知症対策を含めた現状把握と課題を抽出し、取り組みについて見直しを行っていく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
在宅医療・介護連携推進会議開催(回)		目標値	3	3	3	3																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																								
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																								
施策・事業名		③切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進します。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		サービス事業者間の横のつながりはできつつありますが、今後は多職種間でネットワークを構築する必要があります。在宅医療や訪問看護等の資源が少ないことから、市民が希望する在宅医療を十分に提供するためにも、関係者間で連携を図る必要があります。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3~5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題																										
今後の方向性		在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進するために情報共有や知識習得等のための多職種連携研修を開催する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																				

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		④在宅医療・介護連携に関する相談支援																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置により、連携の取り組みを支援します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		第7期計画において、相談窓口は委託化を検討していましたが、在宅医療・介護連携推進会議の審議を経て、当市や近隣市町の現状を踏まえ、委託は見送りとしました。当面は、市に設置した状態を継続し、関係機関が互いに連携を図りやすい関係の構築に努めます。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
		目標値																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題																											
今後の方向性		在宅医療・介護連携に関する課題が生じた際の関係機関からの相談先を高齢者福祉課とし、課題把握に努め、連携強化のための研修会等を実施する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
		目標値																									
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
				規模(量)																							
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		⑤地域住民への普及啓発																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域住民(本人や家族)が在宅での医療や介護について理解し、自分自身で選択することができるように、講演会等の開催や情報提供媒体の作成による情報提供等を行い、普及啓発活動に取り組んでいます。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		介護と医療サポートガイドの見直しを行い、情報の更新や提供を行っています。市民健康講演会を開催し、在宅医療・介護についての周知理解に努めていますが、まだ十分に周知されていない状況です。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
講演会等の開催(回)		目標値	1	1	1	1																					
		実績値	0	0	1																						
		乖離率	-100.0%	-100.0%	0.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		令和2年度、令和3年度は、コロナ禍の影響で開催を中止したため。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		在宅療養を希望する方たちだけでなく、より多くの市民が在宅医療・介護について理解を深め、自分で選択することができるよう、看取りのテーマを含めて周知をする必要がある。また、介護と医療サポートガイドは、支援機関の資料として活用されるだけでなく、必要とされるより多くの市民に活用していただくための内容を検討する必要																									
今後の方向性		在宅医療や介護についてより多くの市民の理解を深めるための講演会を開催していく。また、介護と医療サポートガイドは、事例を追加するなど工夫を加え、在宅医療・介護についてよりイメージのしやすい内容にして、講演会などでも周知していく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
講演会等の開催(回)		目標値	1	1	1	1																					
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																								
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																								
基本目標(中項目)																										
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																								
施策・事業名		⑥医療・介護関係者の情報共有の支援																								
施策の対象者																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援します。 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用できるようなツールを検討します。																								
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		事業所を対象にしたアンケート調査では、ケアマネジャーの8割が千葉県地域生活連携シートを活用していることが把握できました。また、病院連絡会研修会においては、千葉県地域生活連携シートの活用について、意見交換を行いました。入退院時の連携においては千葉県のシートが普及しているため、活用にあたっての問題点等の情報交換を継続します。今後は、在宅での医療連携や看取り、急変時の情報共有について検討する必要があります。																								
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																										
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																				
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
		実績値																								
		乖離率																								
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																										
次期計画(第9期)の取組または方向性について																										
施策または事業の課題																										
今後の方向性		医療・介護関係者の情報共有の場として、多職種連携研修や地域ケア会議を活用する。 必要に応じて情報共有の手順等を定めた情報共有ツールを整備する。 在宅医療・介護連携体制の構築のための仕組みづくりとして⑦医療・介護関係者の連携推進に集約する。																								
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																										
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																				
施策・事業の方向性→																										
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>				規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
				規模(量)																						
		拡大	維持	縮小																						
費用	拡大	①	②	③																						
	維持	④	⑤	⑥																						
	縮小	⑦	⑧	⑨																						
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																				

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1-2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																											
施策・事業名		⑦医療・介護関係者の連携推進																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		介護関係職員に対して医療知識取得のため、または医療と介護相互の理解促進のために連絡会や研修会を企画し、在宅医療・介護連携の円滑化を図ります。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		病院連絡会、事業所連絡会、多職種連携研修企画ワーキング等で、医療と介護の相互理解を図ります。参加者から、まずは顔が見える関係を作ることが重要との声がありましたが、知識の向上を図るためには定期的に開催し情報交換する場が必要であり、今後の課題です。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3~5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
研修会 の開催(回)		見込み	1	1	2	2																							
		実績値	0	1	2																								
		乖離率	-100.0%	0.0%	0.0%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		令和2年度はコロナ禍の影響で開催を中止したため。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		医療・介護関係者の知識の向上と連携強化を図るために、多職種でそれぞれの役割などについて共有したり、知識を習得するための研修の内容について検討していく必要がある。																											
今後の方向性		在宅医療・介護連携に関する課題が生じた際の関係機関からの相談先を高齢者福祉課とする。また、より多くの職種が参加して知識を習得し、顔の見える関係を構築することができるよう研修の内容についても検討し、連携を推進していく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
研修会の開催(回)		見込み	2	2	2	2																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1ー2 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築																									
施策・事業名		⑧地域ケア会議の推進																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		多職種が協働し、個別ケースの支援のために実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、そこで蓄積された最適な手法や把握した社会資源・地域課題を関係者と共有・検討するために、市レベルの地域ケア会議を開催します。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		圏域ごとに地域ケア会議を開催していますが、課題抽出には至っていない状況です。 地域包括支援センターと地域ケア会議の活用の仕方などを協議し、市レベルの地域ケア会議につなげる必要があります。また今後は、介護予防事業と関連した、自立支援型地域ケア会議への取り組みも必要です。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
市レベルの地域 ケア会議の開催(回)		見込み	1	1	1	1																					
		実績値	1	1	1																						
		乖離率	0.0%	0.0%	0.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		個別課題の解決、ネットワークの構築、地域課題の発見、知育づくり・資源開発、政策形成機能を持つ地域ケア会議を各圏域で開催しています。圏域全体での地域課題の発見につながる個別課題の分析には至っていません。それぞれの地域ケア会議が独立してしまわないように、個別課題から地域課題を抽出し、市全体での課題解決につなげるためのシステムづくりを確立していく必要があります。																									
今後の方向性		地域包括支援センターと連携し、引き続き、地域思いやり会議、自立支援型地域ケア会議で個別ケース検討を行い、個別ケースから浮かび上がった地域課題を各圏域ごとに協議する、地域ケア推進会議を踏まえた、市レベルの印西市地域ケア会議を開催します。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
市レベルの地域ケア会議の開催(回)		見込み	1	1	1	1																					
施策・事業の方向性→																											
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
							規模(量)																				
			拡大	維持			縮小																				
			費用	拡大	①	②	③																				
維持	④	⑤		⑥																							
縮小	⑦	⑧		⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)	高齢者福祉課
------------	--------

基本目標	地域包括ケアシステムの深化・推進
基本目標(中項目)	
施策項目	施策の方向1－3 認知症施策の推進
施策・事業名	①認知症ケアパスの作成
施策の対象者	市民
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要	認知症の人が、できる限り住み慣れた自宅で暮らし続け、また認知症の人やその家族が安心できるよう、標準的なケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)を随時見直し改訂及び普及することで、認知症の人やその家族に医療・介護サービスが切れ目なく提供されるようにします。
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況	令和元年度に改訂を行い、より見やすく一般の人にもわかりやすい内容としましたが、ケアパスの存在を知らない人も多くいます。多くの人が認知症を理解し、必要なケアをスムーズに受けることで、できる限り住み慣れた地域で生活ができるよう、ケアパスの活用について周知を図る必要があります。

現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)					
指標名(単位)	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認知症ケアパス(数)	目標値	2000	2000	2000	2000
	実績値	2000	2000	2000	2000
	乖離率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	実績値				
	乖離率				
	実績値				
	乖離率				
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること					

次期計画(第9期)の取組または方向性について	
施策または事業の課題	認知症支援の在り方として、当事者の意向を尊重しつつ、適切なサービスが切れ目なく提供されることをめざしていく必要がある。
今後の方向性	ケアパスの内容にも当事者や家族の意向を反映させ、地域での生活を支援できる内容となるよう、認知症地域支援推進員等との検討を重ねていく。

次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)					
指標名(単位)	項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年
認知症ケアパス(数)	目標値	2000	2000	2000	2000

施策・事業の方向性→					⑤	⑤	⑤	
		規模(量)						
		拡大	維持	縮小				
費用	拡大	①	②	③				
	維持	④	⑤	⑥				
	縮小	⑦	⑧	⑨				

<p>施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)</p>	<p>A</p>
--	-----------------

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		②認知症カフェ																											
施策の対象者		認知症の人・家族・専門職・地域住民																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症の人・家族・専門職・地域住民など誰もが参加でき、和やかに集う「認知症カフェ」を圏域にて開催します。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		認知症に対する理解を深めてもらうため、当事者やその家族と地域の方の交流を図ることが必要と考えますが、当事者やその家族の参加数が増えない現状があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
参加人数(人)		見込み	407	410	420	430																							
		実績値	400	317	384																								
		乖離率	-1.8%	-29.3%	-9.4%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		新型コロナウイルス感染症拡大により、開催回数や1回の参加人数が制限されたことによる																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		認知症施策については、当事者の意向を十分に反映させる必要がある。																											
今後の方向性		開催日、内容、場所について、当事者の意見を取り入れながら検討を重ねる。また、より多くの当事者と支援者が参加できるよう、多様な主体によるカフェの開催も推進していく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
参加人数(人)		見込み	440	450	460	500																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						B																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		③人材育成																											
施策の対象者		医療や介護の相談・支援に係る人																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症になっても地域で生活を継続していくために、医療・介護及び生活支援ネットワークを構築し、必要な人材を育成しています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		すべての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置するなど人材は増えていますが、医療・介護及び生活支援ネットワークの構築や、認知症施策にかかわるリーダーとして活動できる人材の育成が必要になっています。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
認知症地域支援 推進員ほか増員 (人)		見込み	3	10	10	10																							
		実績値	3	9	12																								
		乖離率	0.0%	-11.1%	16.7%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		すでに全ての地域包括支援センターで認知症地域支援推進員が配置されているため、増員数は伸びない。指標を活動中の推進員数とすることが望ましいと考える。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		認知症施策については、当事者の意向を十分に反映させる必要がある。認知症地域支援推進員が、より当事者の意向を反映した施策について提言し、実現していく必要がある。																											
今後の方向性		全ての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を継続して配置し、意見交換会等を通じて当事者の意向を施策に反映できる具体策を提言していく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
認知症地域支援推進員ほか増員口		見込み	3	3	3	3																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		④認知症サポーター養成																											
施策の対象者		小学生以上の市民																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		地域での日常生活強化・家族支援に向けて、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で認知症の人や家族に対して、できる範囲の手助けをする認知症サポーターを養成しています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		小学校での養成は継続しているが、中学校では実施できていません。また、即戦力として活躍が期待できる職域や一般企業での養成が増えていかない現状があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
認知症サポーター 一養成(人)		見込み	1276	1200	1200	1200																							
		実績値	1276	1033	1565																								
		乖離率	0.0%	-16.2%	23.3%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		認知症の人が安心して住める地域となるよう、認知症について正しい知識を持つ人がより多くなるよう事業を推進していく。																											
今後の方向性		地域での支援者となりうる人材として、職域や地域の集まり等での養成講座を実施できるよう周知を積極的に行う。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
認知症サポーター養成(人)		見込み	1200	1200	1200	1200																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		⑤初期集中支援チームの設置																											
施策の対象者		認知症やその疑いがある市民とその家族、および係りのある専門職																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるため、適切な医療や介護サービス等の利用につなげていない認知症の人やその家族に早期にかかわる初期集中支援チームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築を図っています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		初期集中支援の対象になるケースの選定や、支援につなげるタイミングを図ることが難しく、適切な時期に支援を開始することが難しいのが現状です。初期集中支援の対象者や目的などについて関係者が理解を深め、より効果的な時期に支援が開始できるようにしていく必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
初期集中支援チームの対応件数 (件)	見込み		5	7	9	11																							
	実績値		5	8	4																								
	乖離率		0.0%	12.5%	-125.0%																								
	実績値																												
	乖離率																												
	実績値																												
	乖離率																												
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		初期集中支援チームの利用に至らなかった案件が増えたため。地域包括支援センターが対応する案件数は増加しているため、包括で完結できている可能性が高いと思われる。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		対応件数が伸びない要因として、初期集中支援を必要とする案件が増えていないのか、案件の把握ができていないのか不明。																											
今後の方向性		必要時にスムーズな支援が開始できるよう、初期集中支援チームとの連携体制を維持するとともに、チームの存在や役割について周知を図っていく。また、より効果的なタイミングで支援ができるよう、関係機関で支援の在り方について検討を行っていく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
初期集中支援チームの対応件数		見込み	10	10	10	10																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																									
施策・事業名		⑥早期発見事業																									
施策の対象者		市民																									
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症やその前段である軽度認知障害(MCI)の相談できる場を作り、軽度認知障害(MCI)が早期に発見でき、適切な医療機関に連携できるよう早期発見事業を行います。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		軽度認知障害(MCI)を確認できるツールを導入し活用中ですが、本当に心配な人は使いたがらないことも多く、多くの方が気軽に相談できる場を作ることが必要です。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
早期発見事業 (物忘れプログラム実施数)(人)		見込み	90	95	100	105																					
		実績値	0	10	16																						
		乖離率	-100.0%	-850.0%	-525.0%																						
		実績値																									
		乖離率																									
		実績値																									
		乖離率																									
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナ禍で多くの人が集まるイベントが減少し、プログラムを活用する場が減ったことや、1回のカフェやイベントで対応できる人数に限りがあることが要因と考える。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		プログラムの活用のみで早期発見事業を推進していくことは難しいと考える。																									
今後の方向性		プログラムの活用のほかにも、早期発見・相談につながる方法を検討していくとともに、MCIについての周知を図る。また、MCIの相談ができる場所として、地域包括支援センターやオレンジカフェなどの場があることを併せて周知していく。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
早期発見事業C物忘れプログラム実施数		見込み	30	30	30	30																					
施策・事業の方向性→			⑥	⑥	⑥																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>					規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨				
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						C																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1－3 認知症施策の推進																											
施策・事業名		⑦認知症周知啓発事業																											
施策の対象者		市民																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		認知症に対する知識を深めると同時に、認知症予防の方法を学習することで、一人ひとりが認知症の危険因子を減らす行動を習慣化できるように予防事業にて支援しています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		出前講座で認知症に対する周知啓発を目指しましたが、講座の利用者数は伸びていない状況です。より多くの地域住民が認知症予防に関心が持てるように積極的に講座の実施を働きかけていく必要があります。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
出前講座 「知って安心認知症予防」参加者数(人)		見込み	24	40	50	60																							
		実績値		27	38																								
		乖離率		-48.1%	-31.6%																								
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること		コロナ禍で地域での集まりが減り出前講座の依頼も減ったこと、講座の存在についての周知が足りなかったことが要因と考える。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		認知症が増加していくと予想されるなか、認知症についての正しい知識や、進行を予防する方法についてより多くの人に知ってもらう必要がある。																											
今後の方向性		出前講座の実施について積極的に周知を図る。実施方法、会場等について工夫しより多くの人が知識を得られるよう検討を重ねていく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
座「知って安心認知症予防」参加者		見込み	60	60	60	60																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																										
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																										
基本目標(中項目)																												
施策項目		施策の方向1ー4 生活支援サービスの充実																										
施策・事業名		①介護予防・日常生活支援総合事業の展開																										
施策の対象者		関係機関、市民																										
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		介護予防・日常生活支援総合事業(以下、「総合事業」という。)には、要支援者等に対して必要な支援を行う介護予防・日常生活支援サービス事業があります。住み慣れた地域で生活を継続するために、要支援者等の状態に応じて選択ができるサービスの創生を目指します。																										
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		現状としては、従来の訪問・通所介護相当サービスしかなく、地域で自立した生活を目指す支援には至っていない状況です。一律のサービスではなく、その人にとって必要なサービスを選択できる支援や、一人ひとりの生きがい・自己実現を促す支援を行う必要があります。																										
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																												
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																						
		実績値																										
		乖離率																										
		実績値																										
		乖離率																										
		実績値																										
		乖離率																										
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																												
次期計画(第9期)の取組または方向性について																												
施策または事業の課題		通所型サービスC、訪問型サービスDの市独自サービスを実施しているところですが、受入人数や利用人数が少なく、実施方法や周知に対し、今後も検討していく必要があります。 市民や関係機関も含め、総合事業の主旨や自立支援の方向性について、共通認識が図れていない状況です。																										
今後の方向性		地域包括支援センターや生活支援コーディネーターと連携をしながら、市独自サービスの展開方法について検討していきます。 関係機関や市民に対し、総合事業の目指す姿の共通認識が持てるよう、周知・啓発していきます。また、自分らしい生活が実現できるために、自分自身が何をしたいかを考え、自らが実現に向けて取り組めるよう、自立支援への啓発も行っていきます。																										
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																												
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																						
施策・事業の方向性→																												
<div><div></div><table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td></td><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table></div>				規模(量)				拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨					
				規模(量)																								
			拡大	維持	縮小																							
		費用	拡大	①	②	③																						
			維持	④	⑤	⑥																						
縮小	⑦		⑧	⑨																								
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)					B																							

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																									
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																									
基本目標(中項目)																											
施策項目		施策の方向1－4 生活支援サービスの充実																									
施策・事業名		②生活支援サービスの体制整備・充実																									
施策の対象者																											
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		住民主体の活動や社会福祉法人、NPO、社会福祉協議会、シルバー人材センター、地縁組織などの多様な主体による多様なサービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制作りを推進することを目指すものです。																									
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		市内各圏域に生活支援コーディネーターを配置し、生活支援や介護予防に対するニーズの把握を行っております。地域の支え合いの体制づくりを推進するため、体制整備の必要性について積極的に周知を図り、地域の担い手の発掘を行っていく必要があります。																									
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																											
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																					
ワークショップ 参加者数(人)	見込み		37	45	50	55																					
	実績値		37	21	0																						
	乖離率		0.0%	-114.3%	-100.0%																						
	見込み																										
	実績値																										
	乖離率																										
	実績値																										
	乖離率																										
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		コロナの影響で令和3年度の途中から開催していないこと、地域の支え合いの必要性についての出前講座をワークショップとは別で行っていることが理由として考えられる。																									
次期計画(第9期)の取組または方向性について																											
施策または事業の課題		地域住民の困りごとと社会資源のマッチング数を増やし、地域課題を分析し、具体的なサービスにつないでいく必要があります。また、地域の支え合いの体制づくりを推進するため生活支援サポーター養成講座を実施し、地域の担い手を育成していきます。																									
今後の方向性		各圏域の生活支援コーディネーターが、各地域包括支援センター・ケアマネジャーの抱える相談事に積極的に関わることで、地域の実態・ニーズ把握、協議体を活用した個別支援に努めます。また、地域課題を分析し、具体的なサービスにつなげられるよう検討を進めていくとともに地域の担い手を育成します。																									
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																											
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																					
生活支援サポーター養成講座修了生(人)	見込み		30	30	30																						
	見込み																										
施策・事業の方向性→			④	④	④																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③	維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																									
		拡大	維持	縮小																							
費用	拡大	①	②	③																							
	維持	④	⑤	⑥																							
	縮小	⑦	⑧	⑨																							
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																					

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		地域包括ケアシステムの深化・推進																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向1ー5 高齢者にふさわしい住まい・環境の充実																											
施策・事業名		②バリアフリー化の推進																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		高齢者が安心して日常生活を送れるよう、住宅等のバリアフリー化の推進を図ります。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		エレベーターがない高層住宅やバリアフリー化されていない住宅に住んでいる人の高齢化が見込まれる中、外出が困難となり、住み慣れた住宅に住むことができなくなることが課題となります。 マンション建設や宅地分譲においては、印西市開発事業指導要綱に基づく事前協議により住宅の通路や階段等のバリアフリー化に関して、高齢者に配慮した計画を事業者へ要望しています。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
係各課と連携 照会に対する協議の実施(回)		目標値	実施	実施	実施	実施																							
		実績値	実施	実施	実施	実施																							
		乖離率	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!																							
		実績値																											
		乖離率																											
		実績値																											
		乖離率																											
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること																													
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題																													
今後の方向性		継続																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
系各課と連携照会に対する協議の実施		目標値	実施	実施	実施	実施																							
施策・事業の方向性→			⑤	⑤	⑤																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							

担当課(担当部署名)	高齢者福祉課
------------	--------

基本目標	高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現
基本目標(中項目)	
施策項目	施策の方向2-2 生きがいづくりと社会参加の推進
施策・事業名	⑤交流活動の充実
施策の対象者	
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要	高齢者の健康増進、教養の向上やレクリエーションのための場の提供を行います。
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況	高齢者の社会参加を促進するため、各老人福祉センター等で各種事業や世代間交流を行っています。

画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)

指標名(単位)	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実績値				
	乖離率				
	実績値				
	乖離率				
	実績値				
	乖離率				
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること					

次期計画(第9期)の取組または方向性について	
施策または事業の課題	各活動の場(老人福祉センター、老人憩いの家、草深ふれあい市民センター、公民館、児童館等)の運営及び各種事業の実施を継続。
今後の方向性	継続

次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)					
指標名(単位)	項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年

施策・事業の方向性→					⑤	⑤	⑤	
		規模(量)						
		拡大	維持	縮小				
費用	拡大	①	②	③				
	維持	④	⑤	⑥				
	縮小	⑦	⑧	⑨				

<p>施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)</p>	<p>A</p>
--	-----------------

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課、障がい福祉課																			
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																			
基本目標(中項目)																					
施策項目		施策の方向2－3 高齢者と家族を支える福祉サービスの充実																			
施策・事業名		⑥福祉タクシー																			
施策の対象者																					
現行計画(第8期)掲載の施策概要または事業の概要		要介護1以上の要介護認定者や障がいのある人を対象に、福祉タクシー利用券を交付し、乗車料金の一部を助成しています。																			
現行計画(第8期)掲載の評価と取組状況		平成30(2018)年度より、対象者を要介護認定で要介護1以上に認定された人まで拡大しました。 在宅福祉サービスの充実のため、今後も利用者ニーズに合わせたサービス内容を検討し、実施する必要があります。																			
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																					
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度															
利用回数(回)	見込み		5855	6000	6000	6000															
	実績値		4487	5741	7017																
	乖離率		-30.5%	-4.5%	14.5%																
	実績値																				
	乖離率																				
	実績値																				
	乖離率																				
目標(推計)と実績の差が大きかった理由として考えられること																					
次期計画(第9期)の取組または方向性について																					
施策または事業の課題		特になし																			
今後の方向性		継続																			
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																					
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年															
利用回数(回)	見込み																				
施策・事業の方向性→																					
<table><tr><td rowspan="4">費用</td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td></tr><tr><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>		費用	規模(量)			拡大	維持	縮小	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
			費用	規模(量)																	
				拡大	維持	縮小															
				①	②	③															
④	⑤	⑥																			
⑦	⑧	⑨																			
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A															

担当課(担当部署名)		高齢者福祉課																											
基本目標		高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現																											
基本目標(中項目)																													
施策項目		施策の方向2-4 安心・安全なまちづくり																											
施策・事業名		⑥高齢者虐待防止ネットワークと高齢者虐待への対応																											
施策の対象者																													
現行計画(第8期)掲載の 施策概要または事業の概要		関係機関とのネットワークを構築し、高齢者虐待の防止のための啓発事業、虐待の早期発見、早期対応に取り組んでいます。高齢者虐待防止のための取り組みについて話し合うとともに、介護サービス事業者等を対象に、虐待防止に向けた研修会等も開催しています。																											
現行計画(第8期)掲載の 評価と取組状況		高齢者虐待の対応については、早期発見のための地域への周知やネットワークの構築、早期対応のために関係者の対応策への理解、被虐待者を緊急保護するための施設の確保が必要です。																											
現行計画(第8期)の取組結果の振り返り(令和3～5年度)																													
指標名(単位)		項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																							
研修会の実施回数(回)	見込み		1	1	1	1																							
	実績値		0	1	1																								
	乖離率		-100.0%	0.0%	0.0%																								
	実績値																												
	乖離率																												
	実績値																												
	乖離率																												
目標(推計)と実績の差が 大きかった理由として 考えられること		令和2年度はコロナ禍の影響により開催できなかったが、令和3年度は開催方法を検討し、WEB開催として実施した。																											
次期計画(第9期)の取組または方向性について																													
施策または事業の課題		●高齢者虐待防止法が対象としているのは、「養護者」による虐待であるが、「養護者」に該当しない者からの虐待も高齢者虐待防止法の取り扱いに準じた対応やDV防止法の所管課に繋いでいくなどの対応が必要である。 【新設】○高齢者虐待防止対策の推進																											
今後の方向性		高齢者虐待防止法に基づき、高齢者の権利利益の擁護に資することを目的として、高齢者虐待防止のための周知や関係機関との連携協力体制の構築、関係機関職員への研修等を行っていく。																											
次期計画(第9期)計画値・推計値を記(令和27年は、中長期計画最終年度)																													
指標名(単位)		項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和27年																							
研修会の実施回数(回)		見込み	1	1	1	1																							
施策・事業の方向性→			④	④	④																								
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">規模(量)</td></tr><tr><td>拡大</td><td>維持</td><td>縮小</td></tr><tr><td rowspan="3">費用</td><td>拡大</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr><tr><td>維持</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td></tr><tr><td>縮小</td><td>⑦</td><td>⑧</td><td>⑨</td></tr></table>									規模(量)			拡大	維持	縮小	費用	拡大	①	②	③			維持	④	⑤	⑥	縮小	⑦	⑧	⑨
		規模(量)																											
		拡大	維持	縮小																									
費用	拡大	①	②	③																									
	維持	④	⑤	⑥																									
	縮小	⑦	⑧	⑨																									
施策の総合評価 (評価点「A:計画どおりに事業を進めることが適当、B:事業の進め方の改善又は実施主体の見直しの検討、C:事業規模・内容の見直しの検討、D:事業の抜本的な見直し、休・廃止の検討」)						A																							